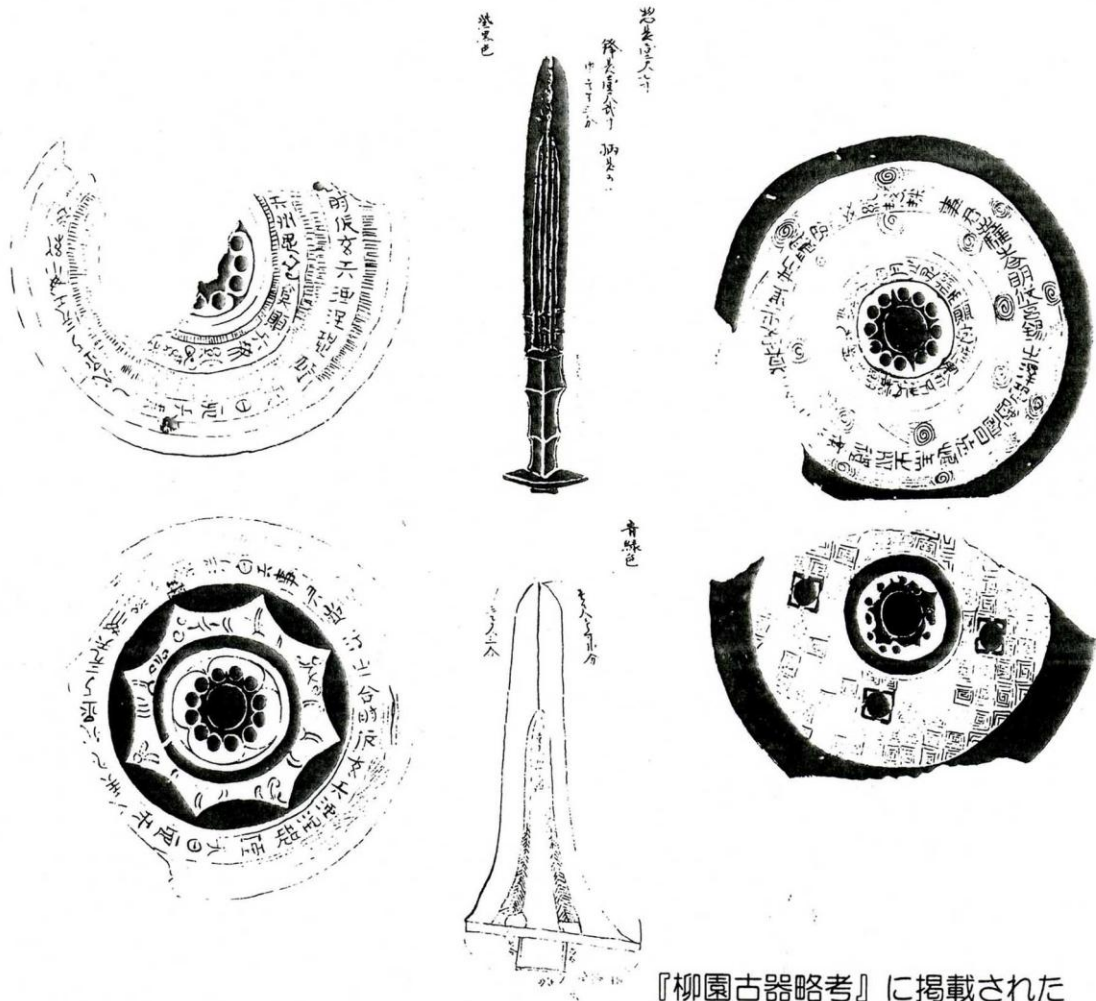


現地説明会資料

三雲・井原遺跡

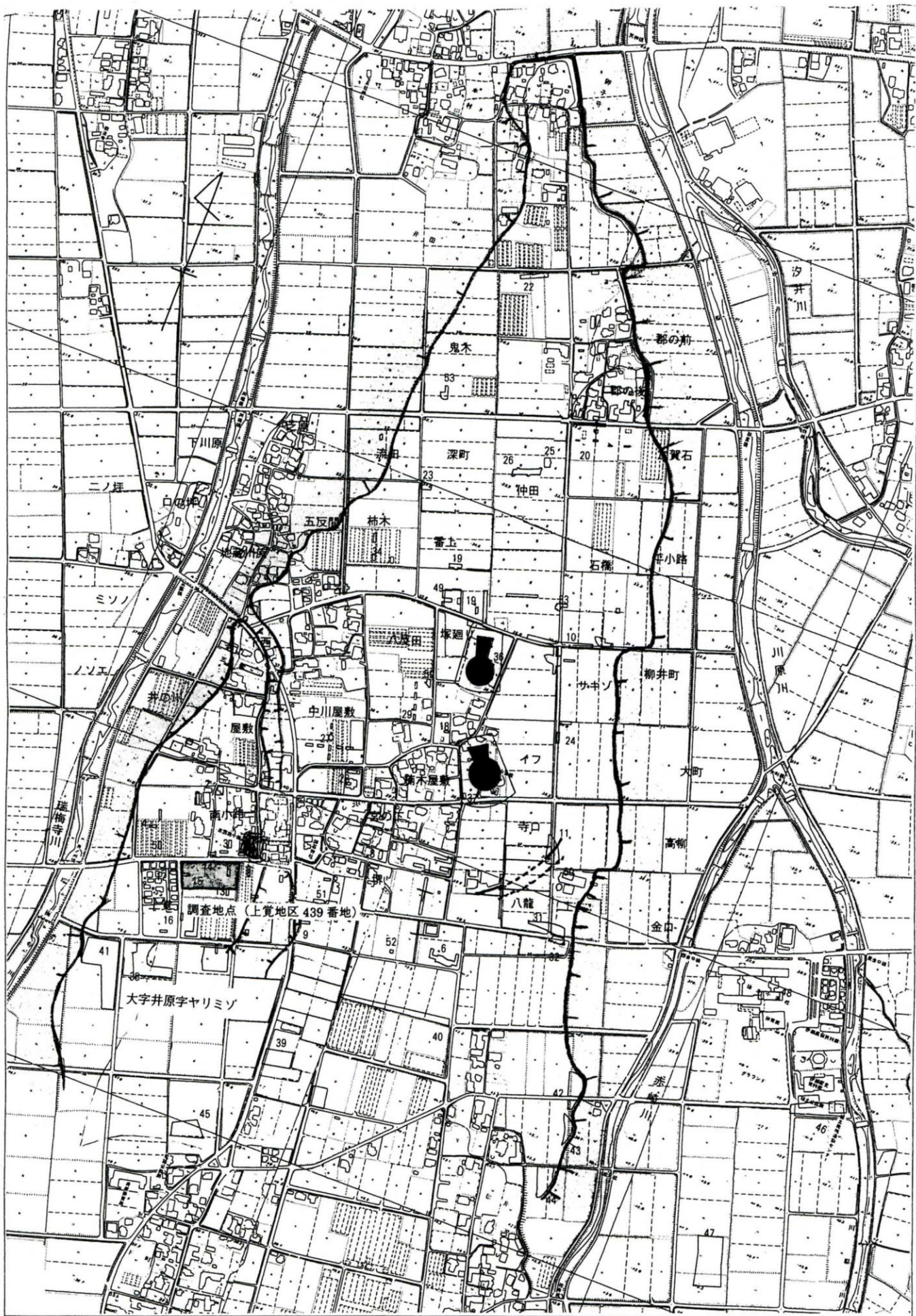
—上覚地区発掘調査成果—



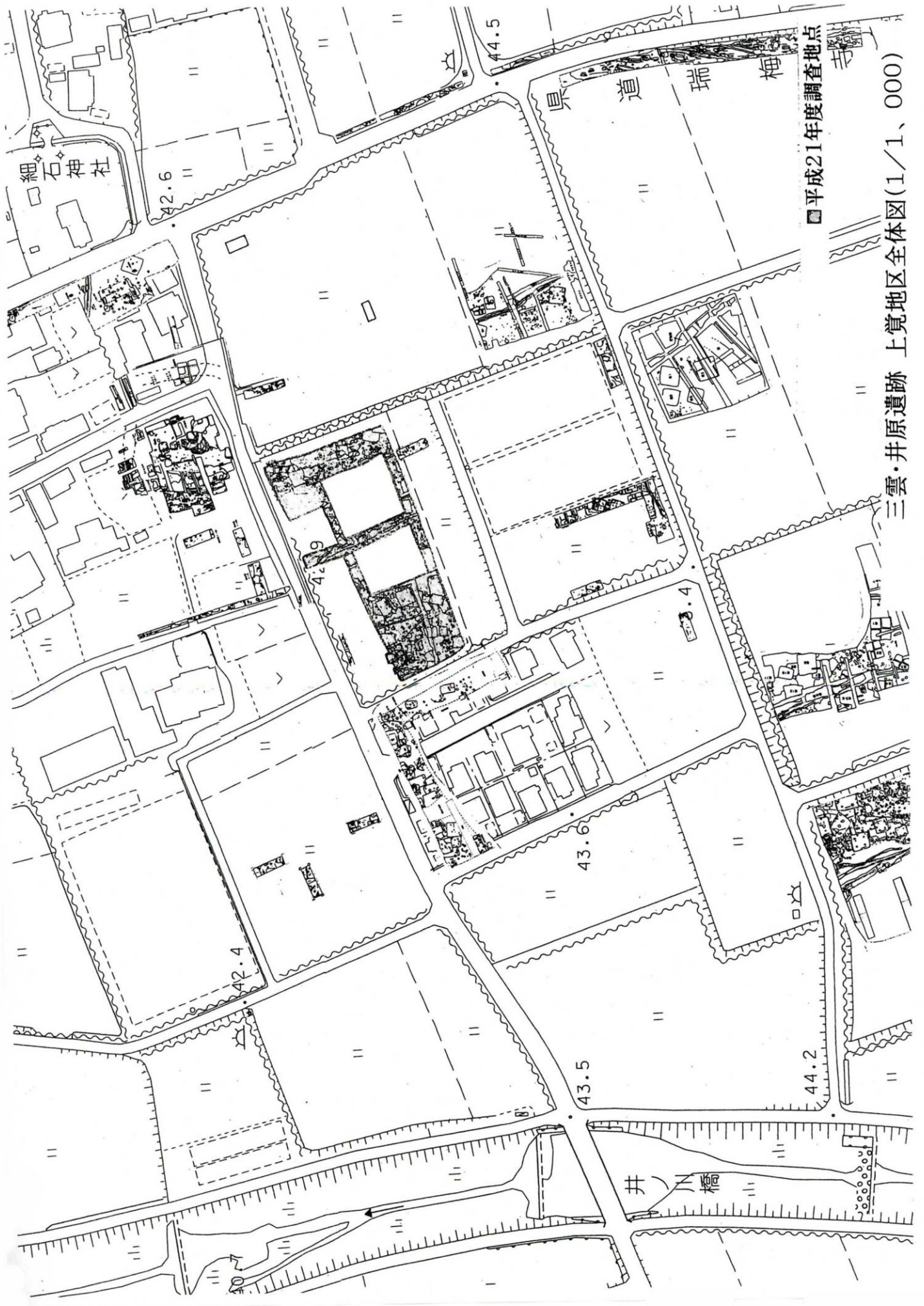
『柳園古器略考』に掲載された
南小路王墓出土遺物

日時 平成 22 年 3 月 13 日 (土)

糸島市教育委員会



三雲・井原遺跡全体図 (1/5,000)



■平成21年度調査地点

三雲・井原遺跡 上党地区全体図(1/1,000)

1. はじめに

三雲・井原遺跡は「魏志倭人伝」に登場する「伊都国」の都と考えられています。倭人伝には「世王有」と書かれていて、それを裏付けるように三雲南小路王墓、井原鎧溝王墓、平原王墓の3つの王墓が確認されています。

このうち三雲南小路王墓については、文政5年(1822)に発見され、知らせを聞いて駆けつけた青柳種信によって「柳園古器略考」に事の始終が記されています。この時の出土品とその後の福岡県による調査成果を合せると、鏡57面以上、有柄銅剣、金銅製四葉座飾金具、ガラス璧など王たるゆえんの数多くの品々が出土しています。

一方、「柳園古器略考」には、当時から40年前にも発見された王墓があることが書かれています。それが、井原鎧溝王墓

になります。40年前といえば江戸時代の天明年間(1781~1788)にあたり、所在が不明な謎の王墓となっています。それには、飢饉の時に井原村の次市という百姓が、三雲村と井原村の村境で、溝岸を突いたところ、「壺」が発見され、中から鏡、鎧の如きもの、刀剣の類が出土したことが書かれています。また、同本の「同(怡土郡)井原村所穿出古鏡図」には、まだ当時残っていた鏡や巴形銅器の拓本が載っています。

糸島市教育委員会では、この重要な井原鎧溝王墓の所在を明らかにし、三雲・井原遺跡の国指定史跡を目指すべく、平成9年度から発掘調査を進めています。

今回の調査地は、江戸時代の水路が通っていること、村境に近いことから発掘調査を行いました。



井原鎧溝王墓副葬品(左：漢鏡、右：巴形銅器)

2. 調査の成果

今回の調査では、弥生時代から中・近世に至るお墓や住居が見つっています。同じ場所でも長きにわたり、人々が生活していた痕跡を発掘調査ではうかがい知ることができます。

【遺跡の概要】

1. 遺跡名 三雲・井原遺跡 上覚地区 439 番地
2. 調査期間 平成 21 年 11 月 4 日～3 月中旬（予定）
3. 調査面積 1,023 m²
4. 調査主体 糸島市教育委員会 文化課
5. 主な遺構と出土遺物

弥生時代中期末～後期前半 溝 1 条（王墓を囲む溝か？）
(2,000 年～1,900 年前) 丹塗りの甕、高杯、壺 石包丁

古墳時代初頭 箱式石棺墓 6 基 祭祀土坑 2 基 甕棺墓 3 基
(1,750 年前) ガラス小玉 1 点

古墳時代中期 竪穴式住居 34 軒
(1,600 年前) 陶質土器、初期須恵器

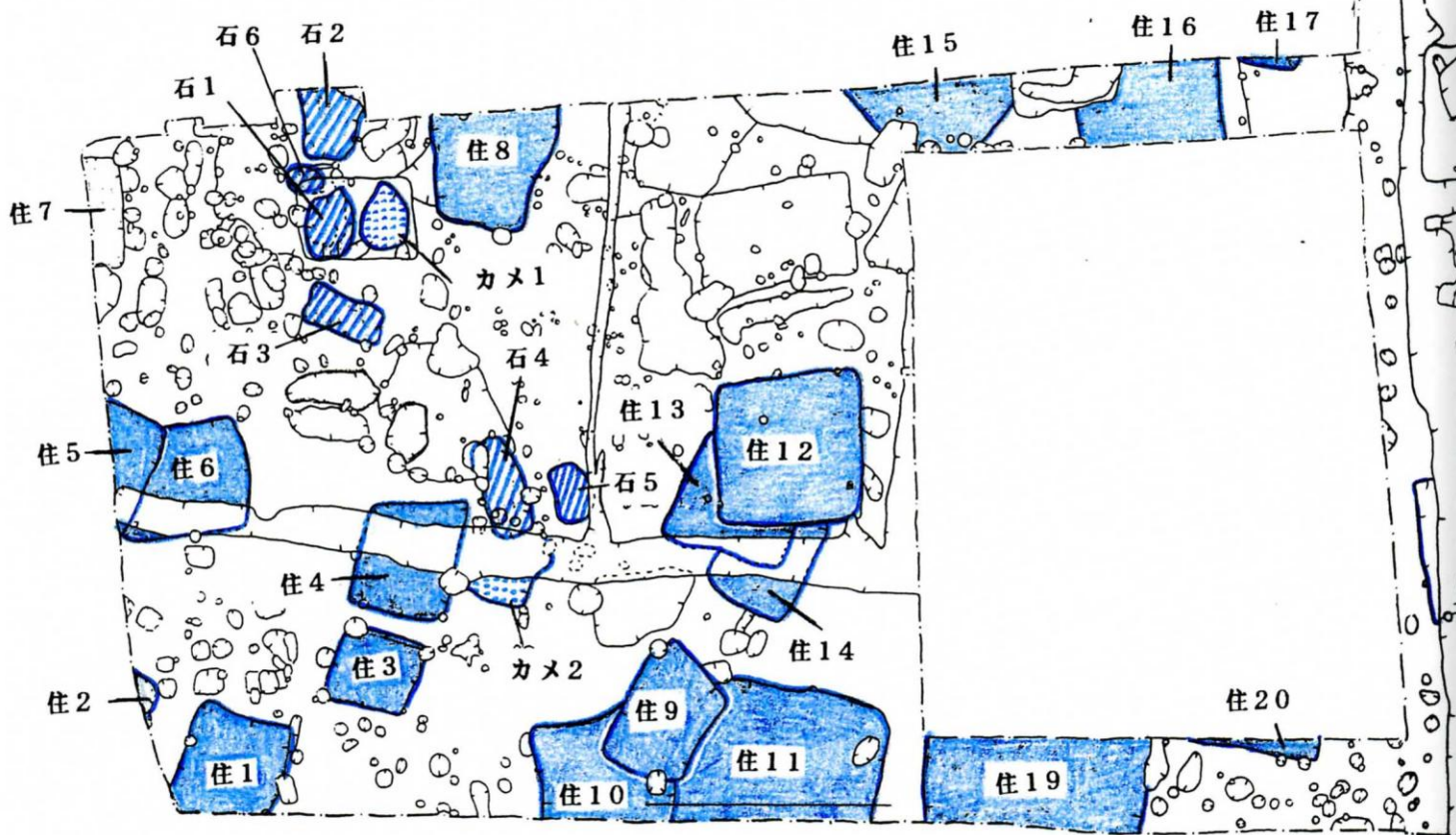
中世 土壙墓 4 基、井戸、土坑、柱穴等
青磁（同安窯、龍泉窯）

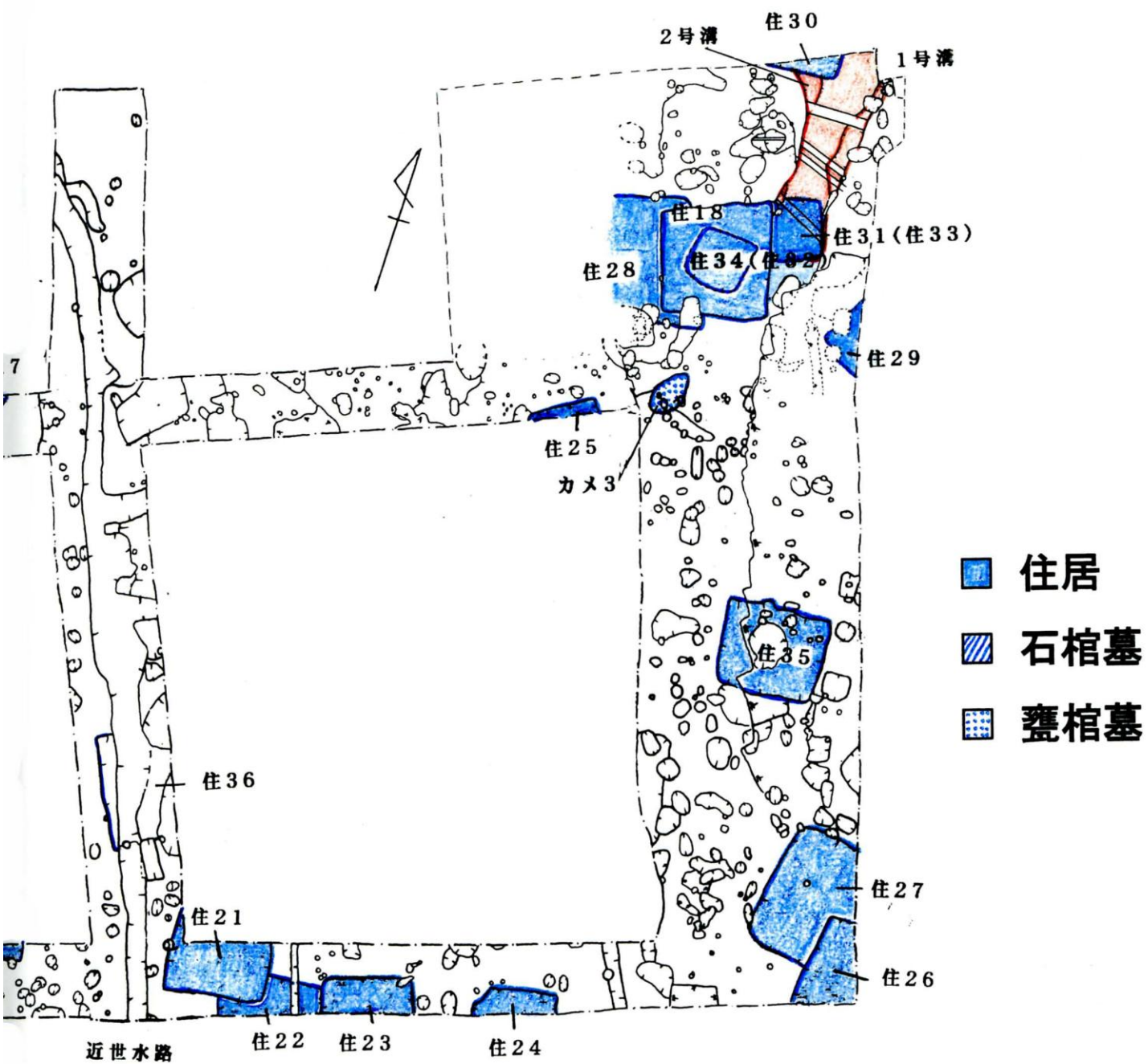
近世 水路（井原鑿溝遺跡に関連？）

3. 注目される成果

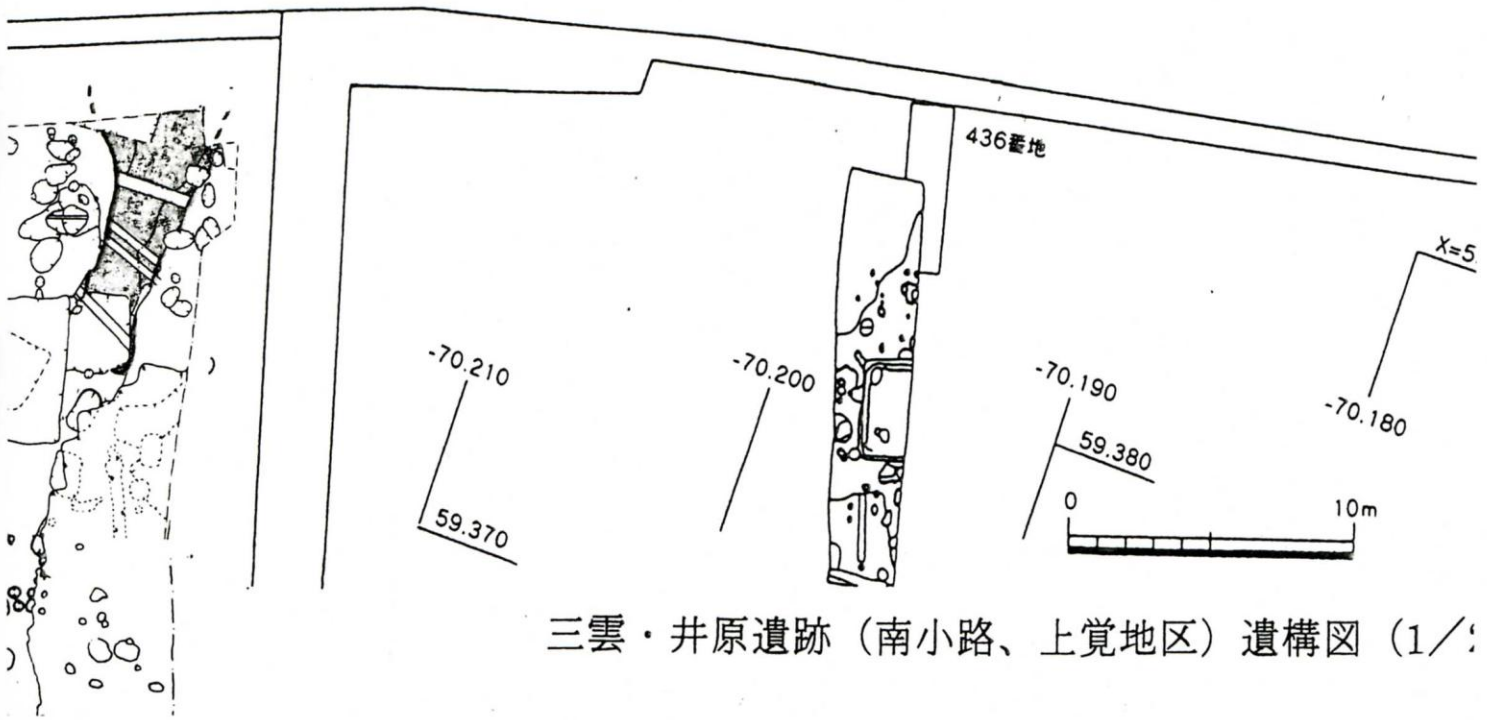
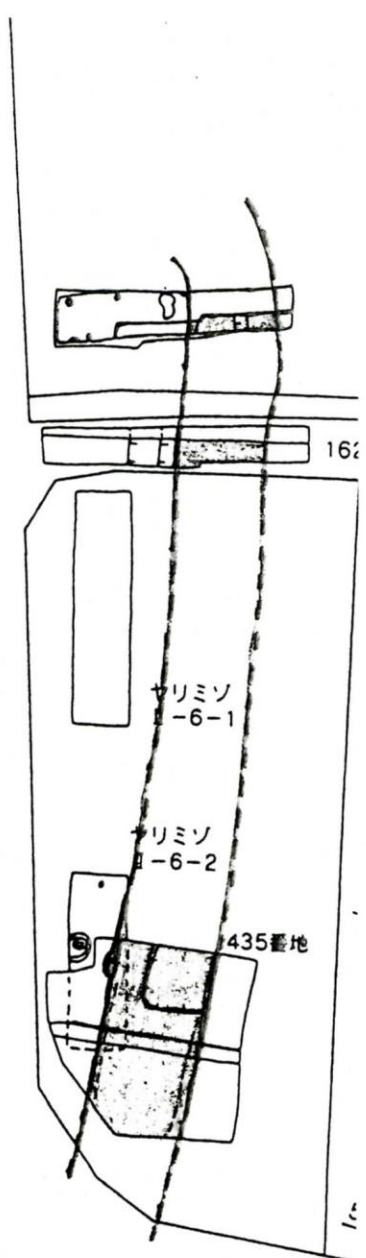
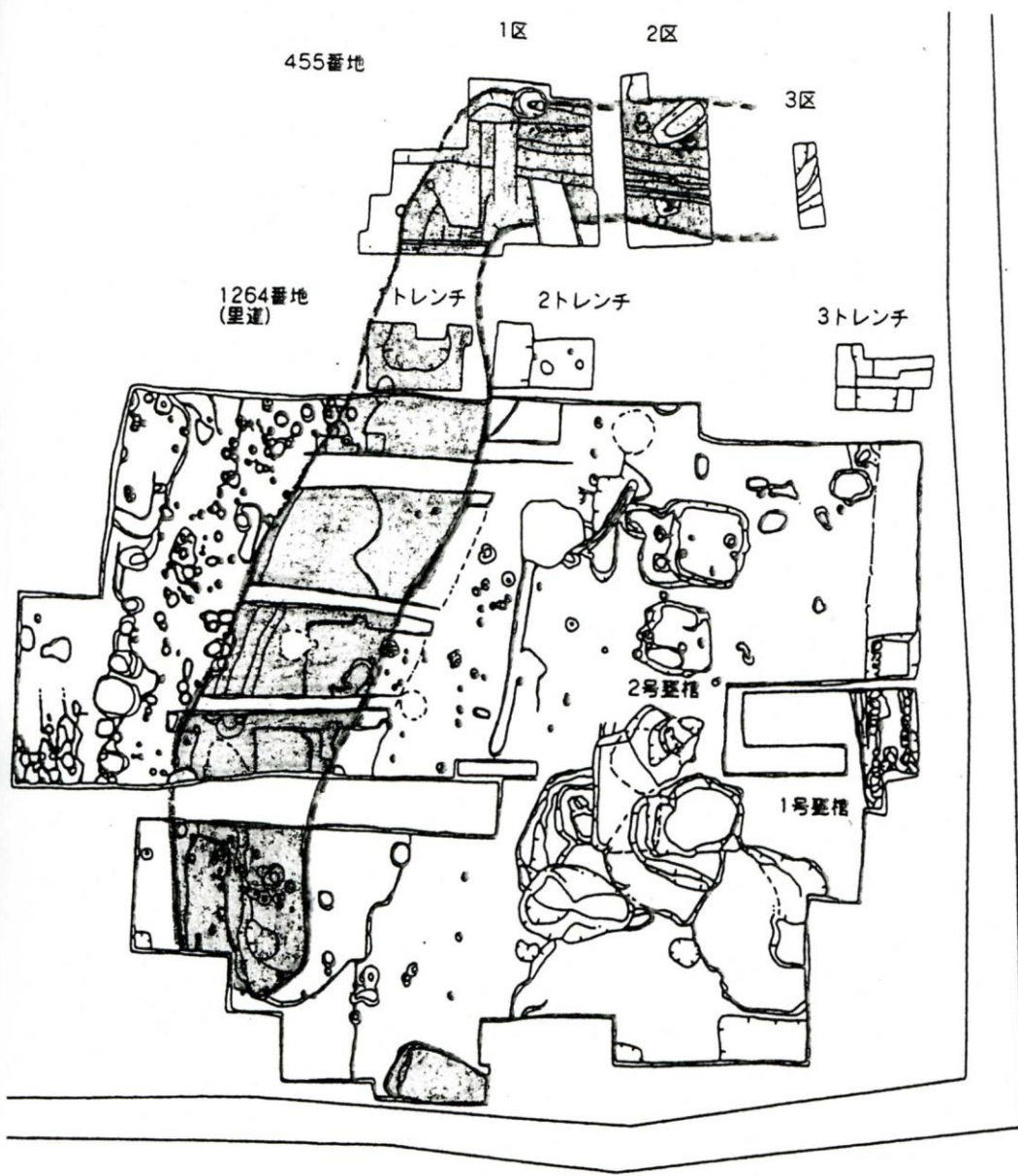
この調査で注目されるのは、調査区の北東隅で見つかった北東 - 南西方向に延びる溝になります。幅が 2.5～3m で、長さが 9m あり、溝の中には、弥生土器が多く出土し、お祭りに使われる赤色の土器も出ています。この溝の延長方向には三雲南小路王墓があり、それを囲む溝（周溝）がありま

す。溝の形や出土した土器を見るとお互いに共通点があり、この周溝に繋がっていた可能性があります。しかし、今回は溝の 1 部分しか発見されておらず、それを確定するためには、周辺の調査を行う必要があります。





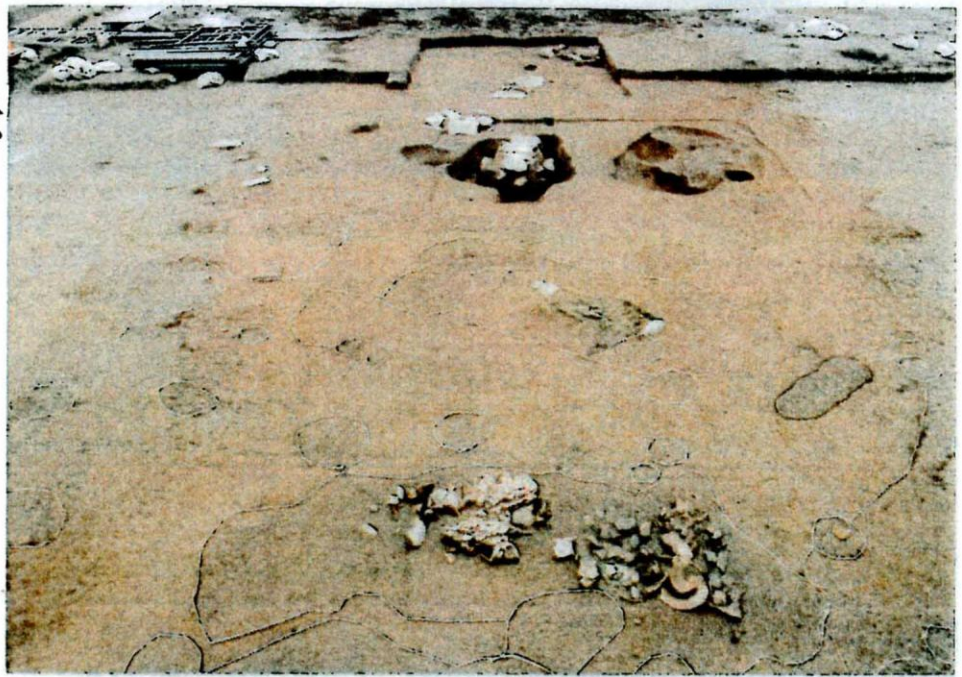
三雲・井原遺跡 上覚地区439番地
遺跡全体図(1/250)



三雲・井原遺跡 (南小路、上覚地区) 遺構図 (1/5)

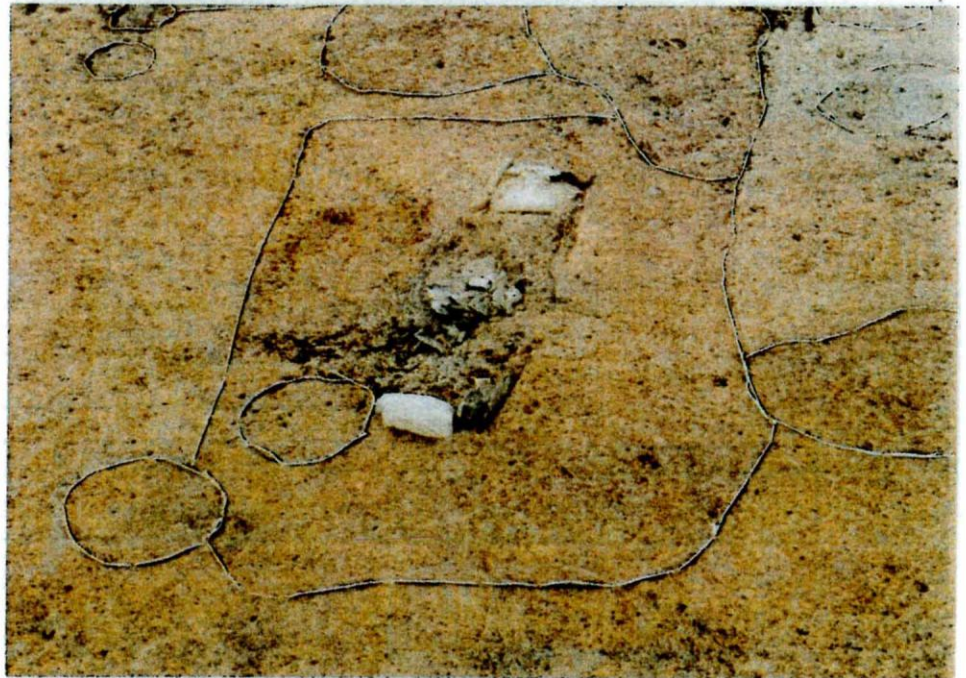
No. _____

調査区北側石棺群全景



No. _____

3号箱式石棺墓



No. _____

福岡県トレンチ



No.



4·5号箱式石棺墓

No.

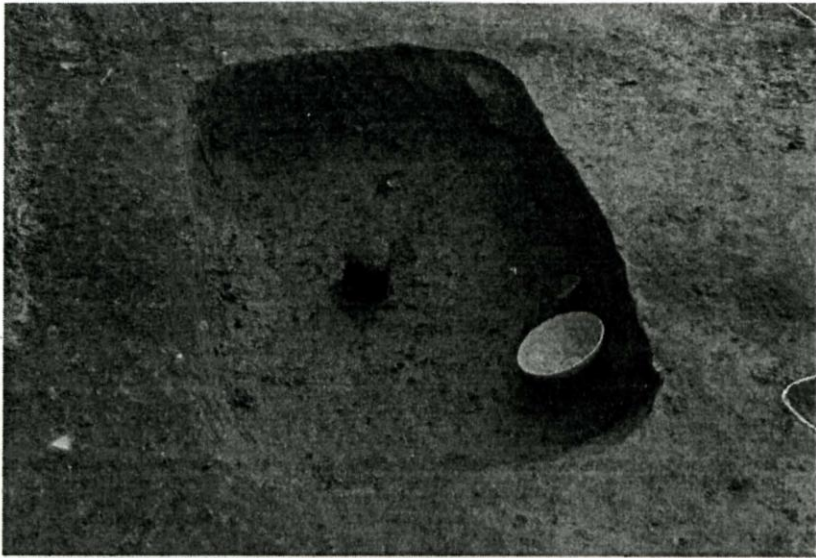


5号箱式石棺墓

No.



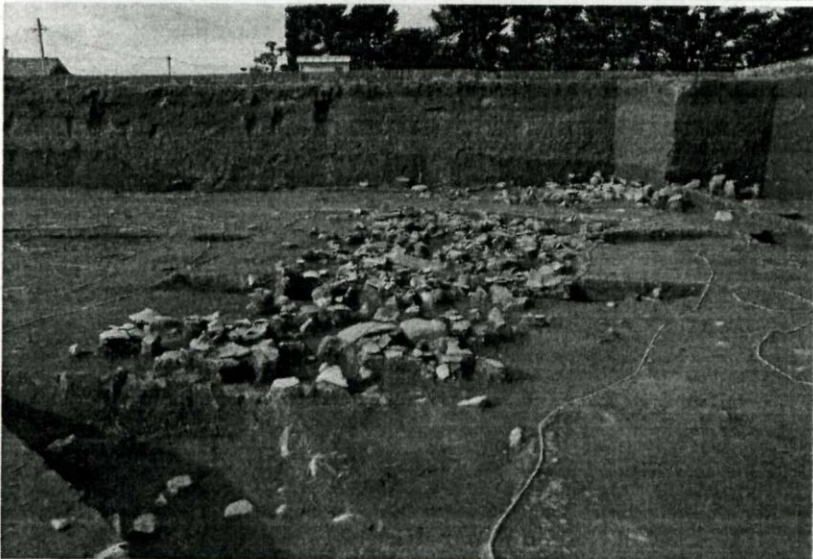
4号箱式石棺墓



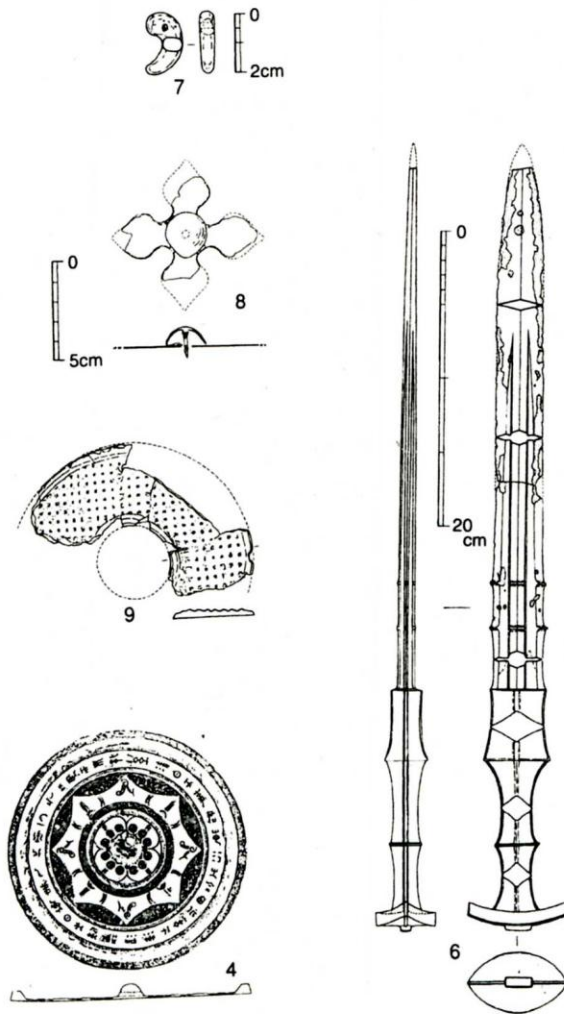
1号土墳墓（中世）



1号溝土器出土状況



1号溝土器出土状況



三雲南小路王墓1号棺副葬品 (1~6は1/5、7は1/25、8・9は約1/35)
 (「三雲遺跡 南小路編」【福岡県文化財調査報告書】69)